

謹賀新年

Happy New Year 2025 !
Shāntam Nirvānam !

常樂我淨・涅槃寂靜

May all sentient beings live in
peace!



旧年中にいただいた皆様のご縁とご厚情に感謝し新年の平安とみなさまのご安穩を念じ上げます

碧空を貫く冬の陽光に樹々の緑の光る朝かな

令和七年 元旦 和国・日本 村石恵照 MURAISHI Esho, Yokohama, JAPAN



伊勢・二見興玉神社の夫婦岩から眺めた200キロ先の富士山の背後から昇る朝日
(Tawashi2006)

The Sun rises from behind Mt. Fuji, 200 kms away from the Futami Okitama Shrine in Ise, Mie Pref., Japan. The big rock on the left and the small rock on the right symbolize man and wife, connected divinely with a sacred rope in the Pacific Ocean.

七福神・The Seven Deities of Good Fortune



七福神の構成は、インドの神格が三体、中国の尊格が三体、日本の神が一柱です。しかも女性の神が中心で和楽を奏でています。

初夢の「回文（かいぶん）」（最初から読んでも最後から読んでも同一の文句）

なかきよのとおのねふりのみなめさめなみのりふねのおとのよきかな

<眠れない長い夜のような迷いの人生を旅してきたが、新年の今夜こそは迷いから完全に目覚めて（仏の平和の願いの込められた）宝船に乗って、こころよい波音を聞きながら、人生を安らかに過ごしてゆこう>

正月2日の夜、この回文が書かれた七福神の宝船の絵を枕の下に置き、回文を3度読んで寝ると吉夢（きちむ）が見られるという俗習が知られている。

この回文には様々な解釈があります。しかし「（迷いの）夢から目覚める」という表現には「いろは歌」に準じた仏教的「夢の世界観」の発想が基本にあるようです。

この初夢の回文と七福神信仰の習合は15世紀ごろには成立したようですが、和の日本文化の心が凝集されています。七福神は人々が現世において抱く様々な幸福観念を象徴しています。

The Seven Happy Deities are all smiles on board the Treasure Boat, wishing you all the best. They are two male Indian deities; one female Indian deity; two Chinese Taoist deities; one Chinese Buddhist monk, and one Japanese deity.

The female deity playing a musical instrument sits in the center in the front row.

NA-KA-KI-YO-NO-TO-O-NO-NE-FU-RI-NO-MI-NA-ME-SA-ME-NA-MI-NO-RI-FU-NE-NO-O-TO-NO-YO-KI-KA-NA (Japanese palindrome) :

Waking up from a long sleepless night, I will sail for tomorrow on board the Treasure Boat as I enjoy listening to the sounds of the pacific waves.

There is a folk belief in the traditional Japan that if you put a picture of the Seven Happy Deities under your pillow on the 2nd day of the New Year, and chant this palindrome 3 times, you will have a dream of good luck.

○ インドの「デーヴァ（神）」

・大黒はヒンズー教の破壊と創造の神・シヴァの化身。原語（サンスクリット語）ではマハー・カーラと言います。マハーは大、カーラは黒の意味。カーラには時間の意味もあります。時間の故に世界の有為転変、悲喜劇の展開があります。

「大黒」の漢字を「大国」と読み替えて「大国」主命(おおくにぬしのみこと)としてインドのデーヴァと日本のカミが習合しています。大国主命は島根県にある出雲大社の祭神です。島根とは、島（日本国）の根（中心）の地域です。

出雲大社の大国主は大地・母性を、伊勢神宮の天照大神は天上の光・父性を象徴しているかのように、両神社で日本はバランスを保っています。

・毘沙門天は原語ヴァイシュラヴァナの音写で、この神はインドでは戦いの神でしたが、仏に帰依して福神となりました。その福德が多方面に聞こえているというので多聞天といわれます。古代インドの仏教的世界観である須弥山世界の護世神である四天王の一つで北方を守護しています。

・弁才天の原語はサラスヴァティで河川の神の一種で、音楽・芸能の神ともされ楽器を持っています。七福神で唯一の女神です。弁財天と訳されて豊穡の女神と見なされています。

○ 中国の「神」

・寿老人は富貴長寿の神。日本の七福神の一人としては白鬚明神（しらひげみょうじん）とされています。

・福祿寿は南極星の化身とされる道教の神で、幸福・長寿の象徴です。

・布袋（尊）はかつて中国現在の浙江省に活躍したといわれる禅僧、弥勒菩薩の化身ともいわれます。その満面の笑みを浮かべた大きなお腹の姿は満足感・幸福感の象徴で、理屈っぽい人生観にうんざりした一部の西欧人には Happy Buddha として好まれているようです。



布袋（Chinese Buddhist monk）・萬福寺（宇治市）

○日本のカミ（神）

・恵比寿は福神の中で唯一の日本由来のカミ。エビスはエミシ（アイヌの自称）ともいわれ、また夷（えびす）とも書かれて、海の彼方から漂着した漁神で蛭子（ヒルコ）と同一視もされています。現在は商売繁栄の神です。えびす顔といえばニコニコ顔のことです。

恵比寿は七福神の中ではもっとも複雑な由来を持つカミ（神）で、日本人の出自と文化的情念の複雑さも暗示しています。（ちなみにサッポロビールは「エビスビール」をつくりましたが、1906年（明治39年）にエビスビールを輸送するための駅として「恵比寿駅」ができ、その後1966年（昭和41年）に正式な町名となったとのこと）。

* 厳密に言えば、ヤマト言葉（和語）の「カミ」と、漢字（中国語）の「神」は違う概念です。さらに、インドのヒンズー教のデーヴァと、ユダヤ教のヤーヴェ（Yahweh）・キリスト教のゴッド（God；起源は古代ドイツのアングロサクソン語）・イスラム教のアッラーに共通する絶対的造物主のすべてに日本語の「神」の語を適応しているため、日本人が「宗教」を論じる場合に混乱をもたらしています。意味の違いをしっかりと見極めて、和の心で丸く納めてゆきましょう。

ともあれ、日本・中国・インド三国の集合情念の象徴である神々が、女性の神の奏でる和音の楽しみながら新年の船出をするということは、よきかな（和語）・善哉（漢語）・スヴァーハ（インド語・幸あれ）であります。



改めて、新年を迎えてみなさまには、ご健勝とご安穩の日々を念じあげます。

令和七年を迎えて、和国の教主・聖徳太子のまことの心・弱い立場にある人に寄り添う心を大切にして、アジアの人々をはじめとして世界の人々と仲良くできる新しい文明を目指して生きたいものです。

本年もみなさまのご健勝を念じ、世の中の安穩をおいのり申しあげます。

令和七年 元旦 村石恵照 拝